

◆令和6年度、防犯サポート活動実績

A・地域における防犯活動

- ③従来より活動している「地域安全連絡所」の表記に加え、所轄の橿原警察署生活安全課の指導のもとで「こども 110 番の店・車」として今年も、会社前駐車場、玄関入口、営業車両にステッカーを作成し貼付。
- ⑥会社前の駐車場にある自販機のLED照明を明暗センサーで「防犯灯」として活用し、夜間に点灯。
- ⑦地域住民の関心を高めて犯罪を減少させる等、安全安心まちづくりに貢献することを目的に、防犯カメラ搭載の飲料自販機を設置（駅前・公民館・観光センター・総合運動場・福祉公園等）

E・顧客に対する情報提供・啓発活動

- ①社員が持つ名刺に防犯サポート事業所・シンボルマークを掲載し、顧客訪問時に参加を呼びかける。
 - ④設置先企業団体様との協議のうえで自社管理の自販機に防犯カメラを搭載し、地域の見守り活動に参加。
- 例）公益活動団体、行政管理の公営施設、ビル管理会社、不動産会社管理のマンション等
また、設置先（奈良県安全安心まちづくり推進のサポート事業所に登録済）の企業様に、弊社取り組みとしての事例を紹介し、「こども 110 番のお店」ステッカーの制作例を案内。製作の協力をしました。
設置先様が自主的に取り組む防犯サポート事業所の活動として、全店舗に掲示して頂きました。



F・従業員の防犯意識向上、防犯教育

- ①こども 110 番の店・車の活動を例として活動内容、その留意事項を社員に確認するため会議を開催。社員の再確認のため、対応手順と聞き取りメモの活用を喚起。防犯情報誌「やまとの安全」を材料に日頃の注意点を指導。業務中に役立つ事例として記事の事例と、実際にあった事例を紹介。
- ②、⑤社内広報板に「やまとの安全」、防犯記事の貼付と車上ねらいの被害例から具体的な対策例を掲示。

令和6年度に活動した防犯・見守りカメラ設置8つの例

- ①黒滝村「村福祉センター・診療所前」施設前のバス停から周辺道路の見守りを協力
- ②黒滝村「黒滝森物語村」レジャー施設の休憩所から、主に川辺の遊び場とホテル出入の見守りを協力
- ③曽爾村「伊賀見特産品直売所」前の幹線道路（曽爾高原等観光客出入りの主要道）の見守りを協力
- ④曽爾村「曽爾村地域総合センター」への来館者見守りを協力
- ⑤天川村「榊源・フォレストイン洞川（キャンプ場）」の出入口周辺の見守りを協力
- ⑥天川村「洞川キャンプ場」の管理棟からキャンプ場出入り周辺の見守りを協力
- ⑦奈良市「住宅街のマンション前」捜査協力の要請が続くため、防犯カメラを増設
- ⑧生駒市「自動車ディーラー様の店頭」自動車展示横の柱から、主要幹線道路に向けて見守りを協力



防犯カメラ

阪奈道路生駒IC南側、幹線道路沿いに防犯カメラを設置



⑧ 生駒市、自動車ディーラー様



店頭から幹線道路向きに
防犯カメラで撮影した画像例



防犯カメラ

② 黒滝村、村営ホテル前のレジヤース施設



防犯カメラ

① 黒滝村、村福祉センター・診療所前



③ 曾爾村、小太郎岩キャンプ場前の伊賀見直売所様

防犯カメラ

令和6年度、地域協働に取り組む
見守り防犯カメラの主な設置例



防犯カメラ

⑦ 奈良市、住宅街のマシソン前で防犯カメラを増設



防犯カメラ

⑤ 天川村、キャンプ場グランド前の施設



防犯カメラ

⑥ 天川村、キャンプ場の管理棟前

◆令和6年度、交通安全サポート活動実績

G・従業員の交通安全意識の向上

- ①、②交通安全記事・ポスター等を社内広報板に貼付けて事例を紹介。
月初の会議で具体例を参照し指導。
- ③奈良の鹿愛護会様と協業の交通安全運転を啓発するステッカーを活用し、
営業車両へ貼付。
- ④仕事中はもちろん、休日、自家用車の利用時
も全席シートベルト着用が義務化であること、
運転中の電話（イヤホン使用）禁止（エンジン
停止後の通話を指導）を改めて指導。
交通安全指導パンフレットを社内広報板に掲示。
自転車条例の説明と、自転車保険加入の指導、
ヘルメットの着用など「自転車安全利用5則」
の家族への呼びかけを指導。



【自転車安全利用5則】

- 1、車道が原則。左側通行。歩道は例外。歩行者を優先。
- 2、交差点では、信号と一時停止を守って安全確認。
- 3、夜間は、ライトを点灯。
- 4、飲酒運転は禁止。
- 5、ヘルメット着用。

- ⑥新聞の交通事故発生記事を社内広報板に掲示し、その事例を紹介。
安全運転と事故防止の指導。
会社周辺の道路において事故が多い場所を紹介、通行時の注意点を指導。
- ⑦「ストップ飲酒運転」のポスターを掲示し、社員に飲酒運転の根絶事業所
であることを喚起。

H・従業員等に対する交通安全教育

- ①、②、⑤ 安全運転の指導として事例を紹介し、運転時の具体的な注意点を指導。
- ③会食時は、具体的な帰宅方法を確認。特に飲酒するものにはハンドルキーパーが誰であるのかまでを個別
に確認。

I・車両の安全性の確保

- ①、② 毎月月初に車両担当者から、社員個別に点検簿を確認。月初の営業会議で実施内容の再確認。運転
前の日常点検では、事故を未然に防ぐ重要点検箇所としてタイヤ空気圧の確認を重視。



NaraVender

奈良ベンダー株式会社